令和６年１１月１９日

南 の 風 ５２４

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

鈴木氏の「相乗効果を発揮するチームへ」の続きです。本号でまとめになります。

また樹木は１本だけで立っているよりも、森のように集まっていたほうが豊かに育ちます。お互いの根で土を耕し合って、養分を作り、分け合いながら成長できるからです。リーダーが１人しかいないチームよりも全員がリーダーになれるチームのほうが力を発揮します。「わたしたちが」という選手が多いほど、相乗効果を発揮できます。相乗効果があるはずだと信じてチーム作りをしていくのと、何も考えずに戦術と技術を仕込むだけで良いと思って指導するのとでは、完成するチームが違ってくるはずです。

チームワークは宝くじではありません。運良く作り上げられるようなものではなく、一人ひとりの行動の積み重ねの先に作り上げられるものです。そこには魔法の鍵はありません。これさえやれば良いチームワークになるという処方箋もありません。

組織というものの原理原則に則り、一人ひとりが相乗効果的なチームワークの一員に必要な価値観を成熟させていくことによって形作られていくのです。

奇跡の産物としてではなく、目指すべき努力の方向性として、チームワークというものを捉えていくことで、日々の練習の声がけも、具体的な行動も変えていくことができるのです。

いよいよ最後のプロット　「刃を研ぐ」についてです

「人間性」や「身体能力」や「知性」には、これですべてが磨き終わったという完成形がありません。完成したと思った次の瞬間には劣化が始まっています。一度これで満足だと感じたとしても、そこからさらに磨き続けなければ、現在のレベルを維持することはできないでしょう。それは刃のようなものです。どんなに切れ味鋭い刀でも、使ってから手入れをしない、研ぐこともしないなら、すぐに錆びついてしまうでしょう。常に「刃を研ぐ」という価値観を持つことはとても大切なのです。

長年にわたって努力していれば、一度くらいは満足のいく良いチームが作れるかもしれません。良い選手が揃ったり、タイミングや幸運にも恵まれたりして、目標とする大会などで結果を残せるでしょう。それはチームメイトみんなが協力しあい、切磋琢磨することができる理想的なチームです。しかしそれで良し、と思ったらあとは刀のように錆びつくだけです。何もしなければすぐに劣化していきます。その状態を維持したかったら磨き続けるしかありません。もっと良くしたければ、これまで以上の努力が必要です。チームを預かるコーチはもちろん、最高の自分を目指す選手も現状に満足してはいけません。自分がやった成果についてフィードバックして、もう一度考え直すという作業を続けましょう。結果に満足してしまったら、それがおごりになってしまうでしょう。刃が錆びつかないように新しい刺激を与えましょう。さらに相乗効果の発揮できるチームを目指して日々試行錯誤していきましょう。そういう姿勢を身につけられた選手が、バスケットボールを生かして長い人生を前向きに生きられるのだと思うのです。　　以上でこのシリーズを終了します。